

### お知らせ

- 森づくり活動協定；千葉県と当会間の「千年の森づくり活動協定書」が更改され、協定期間が平成22年3月まで3年間延長されます。
- イオン財団助成事業；当会の「ニホンジカとの共生を目指す森づくり」が助成対象事業に選ばれ20年度助成金30万円が交付されることになりました。
- 年次総会・次回活動日のご案内；4月13日（日曜日）、9時30分第一駐車場集合。主な活動予定は年次総会、シカ防護柵設置、食害調査、植物班・野鳥班・栽培きのご班などの班活動。総会では19年度活動・会計報告、20年度活動・予算計画、規約改正など審議し、役員改選を行います。役員立候補希望者はお申し出下さい。欠席者は上記アドレスにメール又は〒284-0043 四街道市めいわ3-23-13 真鍋昌義苑（ハガキ）委任状を提出下さい。
- 年会費納入；年会費1,000円、口座00160-1-578810に振込み又は4月活動日に支払い下さい。

### 活動の記録

3月20日（木曜日）雨 参加12名、新井夫妻、伊藤、鶴沢、久我夫妻、長谷川、福島、真鍋のほか、千葉大名誉教授 大賀宣彦先生、元会員；錦織、広瀬（旧姓中島）さん、

雨と寒さの悪天候のなか「シイタケが大きくなり過ぎるので延期は出来ない」とのシイタケ班長の強い希望で雨天決行。2年ぶりに元会員若手ホープの広瀬さん、最長老の錦織さん、今後植生調査をご指導いただく大賀先生をお迎えし、賑やかで楽しい活動日でした。予定していた広葉樹林調査は断念したものの、先生の豊英島ご案内や島対岸の新活動フィールド候補地探しなども出来ました。班長の予測通りシイタケは大豊作、昼はシイタケ三味のご馳走で体を温め、帰りはお土産いっぱい。雨のなか参加の皆様お疲れ様。大賀先生有難うございました。



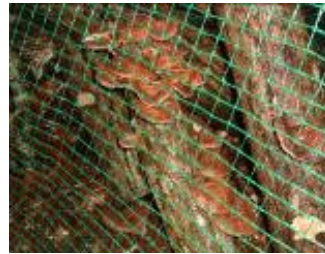
雨の豊英島に大賀先生や懐かしい顔ぶれをお迎えて

○大賀先生のご紹介；大賀先生は、銚子の渡海神社では20数年にわたって継続調査を実施するなど、植生の遷移を長年月に渡って定量的に調査する手法がご専門とのこと。雨の中島を一回りご案内しながら、さっそくモミの更新などで興味深い話をお聞きすることができました。千年の森には格好のアドバイザーです。最近はおっぱら住まい近くの習志野から幕張周辺を植物散策しているので、南房総モードに頭を切り替えなくてはと張り切っておられました。しばらく豊英島に通っていただけるとのこと、楽しみです。（伊藤記）

○豊英島対岸探索；島の豊英湖対岸に「千年の森」第二の活動フィールドに適するような候補地は無いのか探索しました。まず島の吊り橋左手に小面積ながら、駐車とベースキャンプ的な活用や伐採実習などにも恰好のヒノキ林。その奥のサイクリングロード左側の雑木林は急傾斜地で崖崩れや倒木あり荒れてはいるが、尾根も沢や滝もあり動植物多彩、面積も数ヘクタール、活動フィールドの候補地になり得ないか。上空に舞う豊英島のトビ、林間にコゲラ、トンネル内にコウモリ、ニホンジカの嘶きなど短い時間に観察。ニホンジカの痕跡は島以上に生々しく、アオキの食害は1m超の高さに及び、ヒノキの角砥ぎ跡や新鮮な糞を散見する。「東京大学生物多様性研究室」の標示をいくつか見たが、この一帯は「千年の森」生物多様性観察・保全にも恰好の場所ではないか？正確な地図で区域と所有者を確かめ、活用のご相談ができないかと話しながら散策しました。（真鍋記）

○シイタケ大収穫；栽培キノコは大収穫でした。

椎茸；35,8kg, ナメコ;150gr.今まで全く収穫が出来なかった 04 年植菌の広場傍ホダ木からは、多量の椎茸が収穫出来ました。しかし、椎茸は殆ど動物に食べられ、今回収穫出来たのは保護ネットを掛けてあるホダ木からです。移設したホダ場に保護ネットを取り付ければ、更に 10kg 以上の収穫が出来たと思われます。また、植菌していないコナラからも椎茸が収穫出来ました。(久我記) 栽培キノコ班の皆さん、雨の中お疲れ様。



ネットの外は食害ホダ木

ネット内はシイタケ一杯

○シイタケ三味の昼食；昼食は県民の森バーベキュー炉でアツアツの炭火焼きシイタケや具沢山のトン汁をお腹いっぱいいただき、冷えた体も心も十分に暖まりました。長谷川さん特製の新タケノコご飯やからし菜も美味しくいただきました。強風のなかで調理に奮闘くださった長谷川さん、久我則子さん、鶴沢さんご馳走様でした。(真鍋記)



シイタケ三味の暖かいご馳走に満腹

### 豊英島にオシドリの群れ

2008 年 1 月 14 日から、島北部の常緑広葉樹林内にセンサーカメラを設置した。今回 (3/20) 回収したところ、2 月 23 日までの期間で約 110 枚撮影されており、うち 27 枚にノウサギ (4 枚) とオシドリ (21 枚) が写っていた。オシドリは島内で初記録となる。写真は、2 月 10 日のもので、林内に 8 羽 (4 つがい?) が確認できる。オシドリは、カモの仲間で、冬のオスは羽の色が鮮やかでとてもきれいであるのに対し、メスはとても地味な色をしている。カモの仲間の中では、森林をよく利用する。(福島記)



豊英島常緑広葉樹林に8羽のオシドリ 08 年 2 月 10 日

「オシドリは仲のよい夫婦の象徴として扱われ「おしどり夫婦」という言葉もあるほどだが、子育ては他のカモ類と同じくメスが行い、繁殖期ごとに別の相手と結ばれる。」ウィキペディアより

### 久しぶりの豊英島で

広瀬可恵

3 月 20 日、久しぶりに豊英島にお邪魔しました。入ってすぐに感じたことは、落ち葉の量がとても多いこと、明るくなったということでした。特に、ほこら山の麓は明るく、積んであった木の容積も小さくなっていました。道の案内板や広場のテーブルなどの設備もできており、たった五年間で森づくりから森利用まで進行させた会のパワーに驚きました。一方、私がいたときには噂程度でしかなかった動物の被害は深刻な様子でした。動物が入ってくるということは、動物にとっても魅力的な森になったという評価もできますが、わざわざ離れ小島の豊英島に入ってくるほど、周りの山は動物にとって住みにくい、あるいは餌がとりにくい環境なのだろうかと考えさせられました。たとえば鹿にとっては、泳いで豊英島に入り餌を得る方が、泳がなくても入れる他の森で餌を探すよりも効率がいい(楽だ)から豊英島に来ると考えることもできます。見方を変えれば、森に人の手を加えることで植物が殖

え、動物が訪れるという生物の多様性を実現できたととらえることもできます。しかし、会としては大事な植物や栽培キノコを動物に食べられてしまうので、森づくりの障害になってしまいます。勝手な想像ではありますが、豊英島に入るには動物にも、泳ぐなどの努力が必要なので、植物が動物に食べられて餌が少なくなれば、動物も島に入らなくなり、また植物が殖え、また動物が入り・・・と繰り返し、生態系のバランスはとれていくように思います。ただ、豊英島は単に生物の多様性の為の森ではなく、人が楽しめる森である必要もあります。季節になれば貴重な花が見られる、計画通りの森を作りたいといったような会の意向と生物の多様性との調整が難しく、一生懸命対策をとられているのが分かりました。生物の多様性を維持するより生物の多様性と人間の欲求を同時に満たすことが難しいのだと実感しました。島の中には至る所に網で保護区が作られていました。非常に苦労されていることが伝わってきました。島全体を網で囲うとコストがかかり、また、動物を完全に遮断してしまうのも生物との共存にならないという欠点があります。また、保護区のみを網で囲うと景観が悪く、人にとっても不便という欠点があり、とても悩まれたのだらうと思います。豊英島の中だけで動物との共存と会の目的を同時に満たすことは難しいようです。島外で動物のための森林づくりを行い、豊英島は竹などの島内にあるもので柵を作り島全体を囲んで人が楽しめる空間にすることができれば、さらに大きな視野で共存を考えられるのではないかと、徐々に遊びに来た人間が言うのも厚かましいのですが思いました。

20日は椎茸がたくさん収穫できました。あんなにたくさんの椎茸を見たのは初めてでした。仕事をせずにおいしいところだけをいただき恐縮です。キノコ班の方々をはじめ、皆様に感謝いたします。ありがとうございました。